

一橋大学大学院社会学研究科研究科内センター

平成 25 年度活動報告書・平成 26 年度事業計画概要

センター	名称: :ジェンダー社会科学研究センター ウェブサイト: http://gender.soc.hit-u.ac.jp/ 学内活動拠点・同電話番号: 貴堂研究室 別館2階 042 (580) 8492
報告者 (センター代表者)	氏名: 伊藤るり 電子メール: r.ito@r.hit-u.ac.jp
報告書提出年月日	2014 年 4 月 1 日

平成 25 年度活動報告

社会学研究科内センター規程「(別表)研究科内センター設立申請書作成時の留意点」の内容も踏まえ、以下の諸点につき項目別に具体的かつ明確に記述してください。記載は 10.5 ポイントで行い、必要に応じて欄の仕切りを上下に調整し、最大でも3頁以内に全体を収めてください。図表を含める場合も、この範囲に収めてください。

1. 組織構成員の異動と理由説明

2013 年度は、代表(伊藤るり)、教育部門総括 1 名(貴堂嘉之)、研究部門総括 3 名(坂元ひろ子、坂なつこ、森千香子)、総務・財務部門総括 1 名(佐藤文香)と、共同推進者 14 名(井川ちとせ、小井土彰宏、尾崎正峰、木本喜美子、中野聡、大河内泰樹、越智博美、河野真太郎、川口大司、吉野由利、中井亜佐子、三浦玲一、イ・ヨンスク、太田美幸)の組織構成員で活動を行った。

2. 当初事業計画に照らした活動実績

2.1 教育実績

GenEP 部門では、2007 年度より全学的なジェンダー教育プログラムを提供してきた。2013 年度は、夏学期に基幹科目群 4 科目、連携科目群 13 科目(うち集中講義 1 科目)、冬学期には基幹科目群 3 科目、連携科目群 15 科目の合計 35 科目を提供した。大学院科目履修者を除き、学部生のみで総計 3823 名が GenEP 科目の授業を履修した。全体として、プログラムの科目群はより充実し、安定した運営を行うことができているといえる。また、本学中期計画「既に実施されている男女共同参画教育・人権教育を集約し、大学全体のプログラムとして合理的な運営体制を作り、これらの教育をさらに充実させる」とうたわれていることから、大芝副学長に GenEP 部門の安定的な運営のための支援を申し入れた。

2.2 研究実績

- 本センター構成員の個々の研究実績は多岐にわたるため、代表および部門総括の業績を下記に掲載する。
- Ito, Ruri, 2013, «La division internationale du travail reproductif et les travailler-se-s domestiques migrant-e-s en Asie : Comprendre la position ‘ périphérique’ du Japon, » *Hommes et Migrations*, avril-juin, pp.33-39. (「アジアにおける再生産労働の国際分業と移住家事労働者——日本の「周辺の」位置を捉える」)
 - 伊藤るり, 2013「EU の重層化する移民空間と共通移民政策——フランスのサンバピエを参照点として」『歴史地理教育』811 号、27-32 頁。
 - 貴堂嘉之ほか編, 2013『<近代規範>の社会史—都市・身体・国家—』(共編著)、彩流社。
 - 貴堂嘉之, 2013「奴隷解放と人種主義のグローバル・ヒストリー—「奴隷国家」から「移民国家」へのアメリカ合衆国の変容」弘末雅士編『越境者の世界史—奴隷・移住者・混血者—』83—97 頁、春風社。
 - 佐藤文香, 2013「ジェンダーの視点から見る戦争・軍隊の社会学」福間良明・野上元・蘭信三・石原俊編『戦争社会学の構想 —制度・体験・メディア』、233-269 頁、勉誠出版。
 - 佐藤文香, 2013「資料報告 アメリカにおける軍隊の女性の今 —軍隊の女性に関する会議に参加して」『国際ジェンダー学会誌』11 号、117-127 頁。
 - 坂元ひろ子, 2013「近代中国漫画及其伝播与世界文化——広告／漫画、全球／民族主義、社会性別」『近代思想史研究』10 号、200-219 頁、社会科学文献出版社(北京)。

2.3 外部機関等との連携、社会貢献の実績、外部資金の獲得等

○外部機関等との連携

(1) 外部講師を招聘し、下記の講演会を開催した

① 公開レクチャー・シリーズ(第20回):2013年6月9日
ナシラ・ゲニフ=スイラマさん(パリ・ノール大学社会学部、准教授)
「フランス・フェミニズムの両義性と隘路」

② 公開レクチャー・シリーズ(第21回):2013年7月5日
マルク・ベルナルドさん(ルアーブル大学社会学部、教授)
「『不法移民』収容キャンプ内部のジェンダー構造」 司会:森千香子
後援:日仏会館フランス事務所/projet ANR-JSPS chorus ILERE

③ 公開レクチャー・シリーズ(第22回):2013年10月25日
申キョンさん(お茶の水大学大学院、准教授)
「政治的代表的制とジェンダー——韓国的女性大統領をめぐる」 司会:伊藤るり

④ 公開レクチャー・シリーズ(第23回):2013年11月15日
柘植あづみさん(明治学院大学、教授)
「生殖技術と社会——不妊治療と再生医療がもたらしたもの」 司会:宮地尚子

⑤ 公開レクチャー・シリーズ(第24回):2013年12月9日
シンシア・エンローさん(クラーク大学、教授)
「フェミニスト魂を捨てずに、研究者としてのキャリアを追求できるか?」 司会:佐藤文香
共催:ジェンダー史学会

⑥ 公開レクチャー・シリーズ(第25回):2014年1月20日
徐阿貴さん(お茶の水女子大学ジェンダー研究センター、研究協力員)
「サバルタン女性の公共圏——在日朝鮮人による夜間中学独立運動から」 司会:伊藤るり

⑦ 公開レクチャー・シリーズ(第26回):2014年2月27日
木本喜美子さん「<家族と企業社会>をジェンダーでつなぐ」 司会:佐藤文香
坂元ひろ子さん「中国近現代思想文化史研究とジェンダー」 司会:貴堂嘉之

(2) 外部講師を招聘し、他機関と連携をとりながら、下記のセミナーの開催を後援した。
山口慎太郎 Changes in Returns to Task-Specific Skills and Gender Wage Gap 2013年6月25日
産業・労働ワークショップ・経済理論ワークショップ・国際交流セミナー共催、CGraSS 後援

○社会貢献

(1) 公開レクチャー・シリーズは、毎回、学会や市民ネットワークを通じた広報を行っており、学外からの研究者および市民にも開かれたイベントとして広く社会貢献に役立っている。毎回のレクチャーには常に50名近い参加者を集めており、本センターの開催するイベントに対し学内外から高い期待が寄せられている。

(2) GenEP 部門が提供しているジェンダー教育プログラムでは、一つの柱として労働・経営・キャリアデザインの系列を重視しているが、とくに共通教育科目「男女共同参画時代のキャリアデザイン」では講師に本学卒業生が登壇することも多く、卒業生や如水会との連携・協力関係の構築に寄与している。

(3) 2014年度より始動する先端課題研究14「ジェンダー研究の過去・現在・未来 —女性学・ジェンダー研究のパイオニアに対する聞き取り調査を中心に」の準備のために複数回会合を開き、対象者の絞り込みを行った。

○外部資金獲得実績

なし

平成 26 年度事業計画概要

3. 平成 26 年度の事業計画

平成 26 年度は、予算規模にそった事業展開として下記の 4 点を行うこととする。

- (1) ジェンダー教育プログラムの安定的な運営を行う。
- (2) 共同推進者の協力を仰ぎつつ、公開レクチャー・シリーズを企画・実施する。
- (3) 2012 年度に開始した「女性学・女性史研究者の第一世代に対するライフヒストリーの収集・記録プロジェクト」を継続する形で、先端課題研究 14「ジェンダー研究の過去・現在・未来 ―女性学・ジェンダー研究のパイオニアに対する聞き取り調査を中心に」として発展させる。
- (4) 2014 年 7 月に台湾文化庁の後援を受けてシンポジウム「舞踊と歌謡からみた戦後台湾と歴史記憶(仮)」を主催する。

4. 平成 26 年度における組織改廃計画

本センター規約(2010 年 4 月 1 日施行)に基づき、2014 年 1 月 22 日の運営協議会において、次年度の代表および各部門総括の選出を行った。代表として伊藤るり、教育部門総括として貴堂嘉之、研究部門総括として坂なつこ、太田美幸、森千香子、財務・総務部門総括として佐藤文香が選出された。また、社会学研究科から山田哲也、経済学研究科から竹内幹の両名が共同推進者に加わることとなり、三浦玲一のご逝去、吉野由利の異動により両名が共同推進者から外れることとなった。

5. その他特記事項(研究科への要望等は本欄には書かず、別途研究科長にご相談ください。)